

歴史認識と教科書問題

「建国記念の日」を考える 2.11 集会 上杉 聡

1 踏まえておきたい基本的視点

大戦の悲劇 加害と被害 戦死者の比率 アジア：日本＝2000万人：310万人
アジアと日本は「加害と被害」で通底する面も ex.原爆・空襲・特攻・遺骨
朝鮮植民地支配 100年の今年、菅談話と遺骨収集の拡大

2 日本軍「慰安婦」、朝鮮人強制連行労働者の死亡遺骨問題ほか

2007年に起こった再度の世界的動き ←アフリカの内戦、イラク戦争の性的虐待
これに応じて日本国内でも地方議会決議が広がる 現在 36市町村
2011.11 女性に対する暴力撤廃国際デーに 61万（国内 15万）筆の国際署名提出

2004年小泉・ノムヒョン会談以降 2600件の遺骨情報<15000人、しかし未返還
政府の無責任さと弔慰金額などで行き止まり 新政権での打開を期待
サハリン、シベリア抑留、軍人軍属の死亡・戦犯など
中国・フィリピン・インドネシア・マレーシアでの労働、虐殺、細菌戦被害 etc.

3 「つくる会」（以下「つ会」）教科書問題とは、そもそも何なのか？

戦争できる国めざし、教育を国家が統制する道を「つ会」は開こうとしてきた

- ①教育内容を、他国への優越感と排他性（偏狭な「愛国心」）へ
→戦争認識（アジア支配の肯定、好戦性、加害認識の欠如）の改
変から民衆・女性・部落などの権利を無視する内容へ PP
- ②教育主権を、教師・地域・保護者・子どもから国家へ
→教科書採択を学校現場から教育委員会へ、採択区を小から大へ

4、「つくる会」と一昨年の採択

2001.8 「つ会」歴史教科書 公立は東京と愛媛の養護学校 合計 521 冊 0.047 %

* 私たちも打撃：「慰安婦」記述の大幅後退 日本書籍はシェア半数以下で倒産

2005.8 「つ会」歴史教科書の採択～東京杉並区・栃木大田原市など計 4,912 冊 0.39%

* 私たちも打撃：9 教委が僅差 「慰安婦」記述は完全消滅 日本書籍新社 3.1%

2006.6 「つ会」分裂 扶桑-育鵬社（日本会議派）と自由社（藤岡派）へ → 訴訟

* 分裂により内部事情暴露され「つ会」（日本会議派）の宗教右派の実態判明

2009.8 新学習指導要領（‘12 施行）への移行措置として旧版の大半は検定せず

「つ会」（藤岡派）が検定 → 採択で自由社と扶桑社合計で 1.7% へ

<歴史> 扶桑社継続 大田原市 杉並区 東京・愛媛の一貫校

撤回 滋賀県河瀬中（中高一貫校）東京書籍へ

新規 愛媛今治地区（今治市・上島町）

自由社新規 横浜市 8 区（／ 18 区） 13500 冊

↓

扶桑社 6800 冊（0.57%） 自由社 13,750 冊（1.12%）

5、今年が4度目の中学校教科書採択年

政権交代と歴史認識・教科書問題

菅談話（「人びとの意に反して行われた植民地支配」）による 1 歩前進を

近隣諸国条項にどう生かすか 戦後処理の法的解決 民主党長期政権が鍵

「つ会」は昨年『韓国併合は日本の誇り』とするパネル展、パンフ発行などで対抗

今年 3 月末に中学校教科書（8 月採択 ‘12 年使用開始）の検定結果公表

学習要領改定により教科書全体が右傾化の危険性（要検証）少なくとも竹島・尖閣

採択権限を小規模化できるか

6、領土問題のとらえ方について

尖閣（釣魚台）諸島、竹島（独島）、北方領土

以上